

第11回 暮らしを支える在宅医療・介護・福祉を支える市民の集い



令和5年度・春号



発行責任者
顧問 中野智紀
菜のはな
Vol.22

令和6年1月28日(日)

カルスタすぎとにおいて「第11回 暮らしを支える在宅医療・介護・福祉を考える市民の集い」が開催されました。

この「市民の集い」は、幸手市・杉戸町・北葛北部医師会が主催で、地域の医療・介護・福祉のつなぎ役として、住み慣れた地域で自分らしく人生を過ごす為に、地域の皆さまと共に一緒に考えていく催し物です。

まず、幸手市長と杉戸町長の挨拶から始まり、第一部では「ケアラー支援」と題して、吉良英敏さんより、地域ケアにおけるケアラー支援のあり方についてご講演いただき、ケアラーに関する知識が深まり、繋がり的重要性を改めて感じました。第二部では、新たな問題に直面する認知症地域ケアで有名な福岡県大牟田市から猿渡進平さんにお越しいただき、実践と実例をもとにした貴重なお話に、多くの学びを得ることが出来ました。

また休憩時間には、杉戸オペラの皆様による《ヘンゼルとグレーテル》ハイライト演奏がおこなわれました。館内には素敵な歌声と演奏が響き渡り、いつもと違う世界観に、来場された方々は魅了されていました。

次回も市町民の皆様と一緒に学び、楽しめる内容にしたいと思っております。一人でも多くの方に足を運んでいただけるような企画にしますので、その時はぜひお誘い合わせの上、ご参加ください。





地域ケア拠点“菜のはな”の取り組みは、北葛北部医師会（ほっかつほくぶいしかい）のホームページ（<https://satte-med.com>）でも公開しておりますので、ぜひご覧ください。

第11回 協働型災害訓練 in 杉戸

令和6年2月9日（金）・10日（土）の2日間にわたり行われた協働型災害訓練は、今年で11回目を迎えました。

この訓練は3.11東日本大震災の経験と教訓を活かして大規模な災害が発生した場合に備えるために始めた取り組みで、菜のはなも毎年参加しています。

会場には、災害支援関係者や自治体の防災担当者、さらには60名以上の大学生も参加されていました。

毎年のように甚大な被害をもたらす自然災害は、もはや他人事では済まされません。災害が起きないことが何よりですが、万が一の時には、この学びが生かされた行動をとることが出来るよう、日頃から備えていきたいと思えます。



花粉対策していますか？

2019年に行われた全国調査によると、花粉症の人の割合は約43%で、日本人の2~3人に1人が花粉症であることが判明しました。中でも最も多いのが今の季節に飛散量が増えるスギ花粉症です。

皆さんの周りにも花粉症と診断されている方が多いと思います。花粉症の症状を軽くするためには、治療とともに花粉が体に入らないようにする注意や工夫が大切です。

積極的に花粉対策に取り組み、つらいシーズンを乗りきりましょう！

外出時の対策



家の中の対策



暮らしの保健室紹介コーナー

【白石工務店（幸手市）】

幸手市にある白石工務店は、ココロとカラダに“あたたかい”住まいづくり専門店です。

モデルルームを地域コミュニティーの場として解放していただき、菜のはなは毎月第3木曜日午後15時に「暮らしの保健室」でお邪魔しております。白石工務店の福祉事業全般を担っている飛田さんが進行役で、毎回テーマを用意してくれており、テーマに沿って話し始めると会話に花が咲き、あっという間に時間が過ぎていきます。

お話し後は体操やゲーム等をしていますが、みなさんはユニバーサルデザインを採用した「黒ひげ危機一髪ゲーム」をご存じですか？

音や剣の手触りに変化をつけており、目や耳の不自由な方や、そうでない方も、障がいの有無にかかわらず、子供から高齢者まで楽しく遊べるように「配慮」されているそうです。

俳優の本木雅弘さんの優しい眼差しに見守られ（等身大のパネルです・笑）、暖かく和やかな雰囲気にも包まれている、とても素敵な居場所です。

